

調査対象

在園児70名(59世帯)の保護者(お子さんが複数通園されている場合は年齢の低いほうのお子さんについて回答を得る)。

調査方法

アンケート方式を採用。標準調査項目に独自項目を追加したアンケートと案内文、共通評価項目のねらいを返信用封筒に同封し、園職員を通じて保護者へ配布。ポストへの直接投函と、園内に設置した箱で並行して回収を行い、弊社事業所にて集計を行った。

利用者総数

70

利用者家族総数(世帯)

59

共通評価項目による調査対象者数

59

共通評価項目による調査の有効回答者数

35

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

59.3

利用者調査全体のコメント

利用する園児の保護者59名を対象にアンケート調査を実施し、35名から回答を得た。総合的な満足度は、「大変満足」88.6%、「満足」11.4%を合わせると100%の高い満足度が得られている。「心身の発達に役立つ活動」、「興味や関心が持てる活動」、「自然や社会との関わり」、追加項目「登園時に子どもの様子についての把握・確認があるか」、追加項目「子どもの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われているか」、追加項目「お迎え時に子どもが満たされた表情をしていることが多いか」では満票が得られた他、「食事への配慮」、「ケガや体調変化への対応」、「職員の子どもへの対応」、「保育内容の説明」、「安全対策」、「行事日程の配慮」、「保育所との信頼関係」等、多岐に渡る項目において9割台の支持を集めている。アンケート全体の回答結果として、平均約92%の支持を集めている。

自由記述では、「先生方がみんな笑顔」、「先生と気軽に話ができる」、「職員のみなさんの仕事が丁寧なところ」等の職員の対応や、「給食がおいしい」、「離乳食段階に応じてきめ細やかな対応がある」等の食事提供面に好意的なコメントが多く見られた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	35	0	0	0
「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%となった。満票という極めて高い支持が得られた他、追加項目「子どもの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われているか」でも同様の支持を集めている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	35	0	0	0
「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%となった。満票という極めて高い支持が集まり、前項と併せて活動に対する理解は広く得られている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	34	0	0	1
「はい」の回答が97.1%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%となった。「無回答・非該当」を除くと極めて高い支持が示されている他、食事提供に対する好意的なコメントも寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	35	0	0	0
「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%となった。自然や社会とのかかわりについては、満票という極めて高い支持が集まる結果となっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	32	1	0	2
「はい」の回答が91.4%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%となった。保育時間の変更については、「無回答・非該当」を除くと非常に高い支持が示されている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	33	2	0	0
「はい」の回答が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。9割台の非常に高い支持が集まり、安全対策への信頼は広く得られている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	33	2	0	0
「はい」の回答が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。行事日程の設定については、9割台の非常に高い支持が集まる結果となった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	33	2	0	0
「はい」の回答が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。9割台の非常に高い支持が集まり、園に対する信頼は広く得られている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	33	2	0	0
「はい」の回答が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。9割台の非常に高い支持が得られた他、追加項目「子どもが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気か」では、8割を超える高い支持を集めている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	33	2	0	0
「はい」の回答が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。9割台の非常に高い支持が得られた他、自由記述では、職員の対応に好意的なコメントが寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	34	1	0	0
「はい」の回答が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%となった。病気やケガへの対応については、9割を超える非常に高い支持が集まっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	29	2	0	4
「はい」の回答が82.9%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。トラブル時の対応については、「無回答・非該当」を除くと非常に高い支持が示された結果となっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	34	0	0	1
「はい」の回答が97.1%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%となった。「無回答・非該当」を除くと極めて高い支持が示されている他、追加項目「担当保育士は子どもの良いところや個性を認めているか」では9割台の非常に高い支持を集めている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	32	2	0	1
「はい」の回答が91.4%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。「無回答・非該当」を除くと非常に高い支持が示されており、情報の取り扱いに対する信頼は広く得られている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	34	1	0	0
「はい」の回答が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%となった。9割を超える非常に高い支持が得られた他、追加項目「園からのたよりなどで日々の子どもの様子や気持ちを知ることができるか」でも9割台の支持を集めている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	24	4	1	6
「はい」の回答が68.6%、「どちらともいえない」が11.4%で全体の「どちらともいえない」の割合の中で最も高く、「いいえ」が2.9%となった。「無回答・非該当」を除くと高い支持が示されており、要望や不満への対応は保護者からの理解を広く集めている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	26	2	1	6
「はい」の回答が74.3%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が2.9%となった。外部の苦情窓口の存在は、概ね周知されている結果となっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	園の理念・方針は定期的に職員に周知して理解を深めると共に、保育実践につなげている 法人の理念は「世のため人のため」で、保育事業が極めて公共性の高いことを自覚するものとしている。これを受けて法人内の各園で、理念・方針を作成している。園の理念は「共に暮らす 共に育む」であり、児童福祉法や保育所保育指針の趣旨を踏まえて2011年の開園時に策定し、子どもの最善の利益を中心に据えて考えられている。園長は理事長を兼務しており、理念・方針は毎年1月に行う理念共有化研修や保育計画、事業計画の見直し時等、定期的に職員に解説して理解を深めると共に、保育計画や実践の振り返りに結び付けている。	
	園の運営方針・保育目標等をわかりやすく冊子にまとめ、保護者に周知している 園の運営は法令等を根拠として、保護者の子育て・子どもの育ちを支える場であるという保育の趣旨をわかりやすく伝える冊子「かなえメソッド」を作成し、保護者や入園希望者に配布している。冊子には理念、各年齢毎の保育目標、食育や安全衛生、家庭との連携等の項目毎に写真を交えながら解説している。表現は柔らかくしながらも、保育理念や保育活動等の内容は理論的且つ職員の真摯な姿勢が伝わるよう構成している。職員の提案で作成したものであり、内容確認等も職員が主体的に行っており、職員自身が運営方針を深く理解する冊子でもある。	
	意思決定プロセスを明確化することで、意思決定と周知に漏れがないようにしている 園の組織は園長以下3名の職務別マネージャー、統括、リーダーが配置され、他にクラスや各業務部門毎にコーディネーターが置かれている。重要案件や個別課題には園長とマネージャー間で意識の共有が行われ、統括、リーダーに伝えられ、毎月のコーディネーター会議で各クラス及び各業務の職員へと周知される。重要事項の意志決定は全職員会議で検討した後、園長が最終判断を行う。課題に対する提案や素案は園長やマネージャーの他、各部署のコーディネーターから出されることもある。柔軟なボトムアップと、情報の確実な周知の体制を作っている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

保育を取り巻く課題について法人間のつながりで把握し、解決に向け検討している

園長は全国規模の保育団体の委員等を歴任し、私立保育園の制度検討会に参画している。区内の私立園長会においても要となり、法人の横のつながりを大切にして、保育を取り巻く課題を把握し解決に向け検討している。定員割れや利用希望の偏り等の共通課題は、園長会として区と協議している。各園の個別利益を優先するのではなく、どの園に通っても満足できるよう保育の質を高く保つことが重要であると考えており、法令等の成立経緯を踏まえ、保育指針の趣旨を活かした園経営が発展されるよう働きかけている。こうした情報は、職員会議でも共有している。

計画的な経営について職員が理解し、参画する機会を持っている

園では中長期計画を毎年見直しており、これに合わせた事業計画を作成しており、全体的な計画と一体的に見直しを行っている。職員は、保育計画の前提となる中長期計画、経営的課題についても理解することとなる。職員の自己評価に関連付け、「自分の保育はビジョンや目的に適合しているか」という意識付けを行っている。園長は経営的課題の解決には、職員の高い意識や予算の裏付けが不可欠であると考え、予算や職員の配置は「多ければ良い」のではなく、子どもに継続的安定的なサービス・支援をするという方向性の共有が重要であるとしている。

毎年利用者アンケートを実施し、要望や回答を公表する仕組みを作っている

保護者からの意見や要望は送迎時の会話や連絡帳、保護者会等で日常的に対応している。園として毎年、第三者評価の形式に準じた利用者アンケートを実施し、集計結果や回答内容について公表している。要望や意見については職員が検討し、誤解があった場合には保育の方針や姿勢を丁寧に説明する他、改善すべき指摘には園全体として受け止め対応している。アンケートの実施は、園の方針や力を入れてきた保育活動の取り組みを保護者に伝え理解を深めると共に、職員自身が一貫性のある対応ができていないか等の確認の機会となっている。

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

保育に携わる職員として、社会規範や倫理観への理解を深めている

保育が児童福祉に携わる社会性の高い仕事であることは、法人職員となった時から丁寧に周知している。児童福祉法・保育士の倫理綱領はもとより、就業規則や園内研修でも学んでおり、入職時に配布される職員ガイドブックに集大成としてまとめられている。また、自己評価チェックシートは、職員に求めたい姿勢を約100項目にしたもので、できてるかを自身で確認するマニュアル的機能もある。園長は年1回の職員面談で自己評価についても聞き取り、必要な相談や支援を行っている。この項目について、職員アンケートでは100%の自己評価となっている。

子どもに対する虐待防止を広範囲に捉えて対策を講じている

園や家庭において、児童虐待に通じるおそれのあることが生じないように、児童虐待防止を広く捉えた上で「乳幼児の犯罪被害防止についての方針と実施内容」をまとめ、職員や保護者に周知している。令和4年には不適切な保育や組織としての対応のあり方等、課題認識を新たにして方針を見直している。日常的にはクラス担任・係分担等は必ず複数体制にし、また、利用者の気持ちを傷つけてしまっていないか職員会議で振り返る機会を作っている。男性保育士も複数いる中で、子どもにはジェンダーバイアスのない保育を目指している。

区や関係機関と連携して、地域の子育ての拠点としての役割を果たしている

地域子育て支援事業として相談事業や保育所体験、出産を迎える親の体験学習等を実施し、身近な子育て相談機関となっている。また、園長は地区の要保護児童対策協議会のメンバーとして地域の子どもたちの実態を把握し、課題解決に向けた園の役割等の認識を深めている。区の子ども家庭総合支援センター(児童相談所)からは毎年訪問を受け、子どもや保護者への関わり方、地域での課題の共有等について意見交換を行っている。虐待等が懸念される家庭が見られた時は、園長を通して関係機関への通報を行い、連携して対応するよう努めている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>広い範囲で想定される様々なリスクに対し、検討を重ねて対策を講じている</p> <p>園内での子どものケガ等から経営的リスクまで、園では広範に想定されるリスクを把握し、それぞれ検討の上で解決策を講じている。中長期計画では、子どもの飛び出し事故を防止するため玄関外構工事等、予防的な施設整備を計画している。また、毎年次改訂を行う保育所安全計画を作成し、安全点検、マニュアルの内容確認、保護者への説明等を明記し公表している。職員には保健衛生・安全対策を担当する統括やリーダーを置き、現場思考によるガイドブックの発行も行っている。経営的リスクは重要課題と認識しており、法人として中長期計画で検討している。</p> <p>大規模災害等に対応するため、行動計画や訓練の実施等を積み重ねている</p> <p>比較的堅牢な地域にあり、施設の安全性も高いが事業継続計画(BCP)や保育所安全計画等を作成し、大規模災害等にも対応できるよう体制整備を図っている。また、BCPは職員がとっさの時にどう行動できるか、どのような状況にあっても判断できるように核となる留意点を明記したガイドの形式を取っている。総合防災訓練では、様々な部署の職員が検討を重ねて首都直下型災害の発生を想定し、実践力を高めることを重視した訓練となっている。マニュアルより実践記録が重要であるとして訓練の概要や実施結果は詳細に記録し、可視化して周知している。</p> <p>業務上の文書や個人情報の適切な管理のため、管理規定を整備している</p> <p>園で取り扱う多くの情報を適切に管理するため、運営規定に文書・データ管理規程、個人情報保護規程等の規程を一括して整備し、職員が共有できるようにしている。規定に基づいた個人情報保護方針を作成し、情報の収集、使用、開示、管理等について保護者に示している。保育業務管理システムを導入しており、効果的に運用するために各保育室や部署毎に十分な数の機器を設置している。ログイン確認やクラウドストレージについての細かな確認のステップを決めることで、情報の流出等の事故予防に努めている。</p>		

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

12/12

評価項目1

事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4

職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

離職の少ない安定した組織となっており、計画的な人材の採用・登用を行っている

園は開園以来離職が少なく、安定した職場となっている。その反面で世代のばらつきが生じ、特に20代の職員が不在だった時期もあったため、計画的な採用や登用を行っている。経験3年未満の若手職員を採用する方針を立て、2年連続で採用することができている。配置基準を超えた人員の採用となっても、次世代の職員を育成するために必要であると認識している。令和4年度からチューター制度を導入し、新人職員を中堅職員が支援して信頼と協力関係を育てている。将来的な人件費の上昇も懸念されるが、法人として検討することとしている。

各自が自分の役割を理解して業務に取り組めるように、面談の場等で支援している

園長は、園運営を支えるのは職員一人ひとりの力であると認識しており、毎年1回面談を行って職員の話聞くこととしている。面談では自己評価チェックシートに基づいて懸案を聞き、相談支援を行うと共に、後輩育成や担当業務、ライフプランや役職への登用等、総合的で計画的な育成について話し合っている。職員の希望を踏まえてマネージャーの登用は園長が、統括やリーダーの登用はマネージャーと相談して決めている。役職とキャリアパスは一致しており、職員はライフプランに合わせて処遇や昇任について希望を出せることとなっている。

職員の意欲が高くチームワークの良い職場が形成され、保護者の満足度も高くなっている

園長は、職員の定着率の高さは「働きやすさ・仕事の面白さ」だけではなく、やりにくさを排除する職場作りにあると考えている。ゆとりある保育環境を作り、クラス運営等の権限を職員に委譲し、形式的な役職ではなく日々の実践力を評価し合える職場風土を作ってきた。園内研修や会議でのエピソード記録の検討等、日常的に意見を出し合い保育の質を高めようとする意欲ある姿勢が、保護者満足度が極めて高い理由となっているとしている。一方で、長年の関係性から、慣れ合いや見込み違い等の意識のずれが生じないよう留意する必要性も感じている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員間の連携や次世代の職員を育成するため、職務分担やキャリアパスを見直し、新たな育成の仕組みを検討することを課題とした。園では開園以来離職率が低く、職員の定着が良い安定した園運営が続けられている。その反面で、新規採用者が少なく年齢構成も高めで、令和4年度末には20代の職員が皆無となる。配置基準を超えていても若手職員を採用し、中堅職員を伸ばしながら育成する仕組み作りが急務であると考えている。
採用方針を新卒を含めて経験3年以内とし、令和4年度には1名を採用することができた。育成担当としてチューター役を指名し、同じクラスに配置して一年間相談や助言を行うこととした。また、チューターを支援するため、人材育成等を担当する統括やリーダーが定期的に関わる仕組みを作った。
一年間の実践では「習熟度確認シート」等の使われなくなったものもあったが、新規採用職員、チューター、人材育成担当統括やリーダー等、それぞれが悩みながらも取り組んできた。また、OJTが組織内にどのように定着していたのかも知る機会となった。
令和5年度も新規採用職員があり、シート利用等は見直ししながら同様の仕組みで育成を続けている。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

離職率が低いことは保育内容の継続性、保護者との信頼関係等メリットが大きい。一方で世代交代が進まず、必要程度の組織の新陳代謝が生まれにくいといったデメリットもある。また、職員アンケートの自由記述には、「慣れ」「伝わっているだろうという思い込み、確認不足」「人間関係の固定化」等、職員間のコミュニケーションに関わる課題も指摘されている。新規採用職員の存在は組織を活性化させるきっかけにもなり、特に新卒者は園が重視している「保育所保育指針」について、最新の情報を持っている可能性もある。
園の課題設定と取り組みは、一年限りでは効果が上がらないが、継続することで確実に組織の若返り、世代の承継が実現する。チューター制度や人材育成担当の統括・リーダーの設置によって、職員間の連携、役割や責任の自覚等、中堅世代の職員の育成にも大きく貢献する取り組みとなっている。キャリアパスとも連動する仕組みであることも、一貫性がある。園は非常勤職員の常勤化等、柔軟な職員採用や育成の取り組みも行っている。将来の人件費率の圧迫は避けられないが、法人としての課題として捉えられている。長期的な視点に立った取り組みの今後に期待がかかる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

処遇改善に伴うキャリアアップシステムの導入から5年が経ち、人材登用に関するシステムを見直すことを課題とした。園では中長期計画に基づき、キャリアアップの仕組みについて5年で見直しを行うことになっている。具体的には、これまで導入してきたマネージャー制度、専門リーダー、職務分野別リーダー等の役職について、実績を検証して実態に即した見直しを図ることとした。基本的には、マネージャーや統括等の役職と人材は固定的に考えず、必要且つ的確な人材が担う柔軟性を持つことを重視した。4名置いたマネージャーの職は「イベントマネージャー」を外して3名とし、行事毎に担当者を置いて責任を持たせることとした。専門リーダーを統括に、職務分野別リーダーをリーダーに改め、職務内容と担当者数を増やしている。各リーダー層の連携や職務分担表の内容も、一斉に見直しを行った。ただし、コロナの影響に配慮し、担当者の変更は最小限とした。一年間実践をした結果、制度の理解や担当者への信頼感等は早くから成果が見られている。また、「安全衛生」「人材育成・研修」等の役割を統括やリーダーに持たせることで、役職者も職員も動きやすくなっている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

国の処遇改善制度を裏付けに、キャリアアップシステムやキャリアパスの整備等が一斉に定着した。園では制度を定期的に見直すことで、園に合った人材活用や、職員の意志・意識を尊重する組織作りに取り組んでいる。問題意識の中核にあったのは、「環境やライフプランが変わっても主任はずっと主任」という固定化した職務分担である。職員育成からも、職員の価値観からも同じ役割をずっと担い続けるよりも、人材の自然なスライドができる仕組みが適切であると園長は考えている。役割分担を細やかに見直すことで、結果として人件費の加算分を有効に配分することにもつながっている。職務分担表の見直しについては、職務においても可視化とわかりやすさを重視した。今後は更にシステムの定着や改善を行うと共に、配置転換にも活かしたいと考えている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ1の講評			
<p>WEBサイトや紙媒体で、園の情報を余すところなくわかりやすく発信している</p> <p>WEBサイトには事業案内や理念方針、園の特徴を詳細に掲載している。園の特徴では「充実した職員配置」であることを、配置基準等と実際の配置の比較表を載せて確認できるようにしている。もう一つの特徴の「保育環境も広々とした落ち着いた保育室」については、園舎・設備紹介として写真と説明を添え、視覚的にわかるよう工夫している。見学者等に配布しているかなえメソッドの冊子では、園の方針に沿った保育内容について写真を用いて詳しく伝えている。</p> <p>利用希望者が必要とする情報を、取得しやすいように提供している</p> <p>WEBサイトの「入園・利用の案内」「保育園の見学」「地域子育て支援事業」では利用希望者への情報を網羅して掲載しており、必要な情報が取得しやすいものとなっている。入園の案内は自治体の入所案内にアクセスができ、必要な手続きを確認することができる。入園にあたっての質問疑問はQ&Aとしてわかりやすく掲載している。保育園見学の案内には、園を選ぶ際に参考となる資料等も一緒に載せている。在宅育児のオンラインでの相談、保育体験や出産を迎える親の体験学習、小中高生の育児体験についても案内して、申し込みができるようにしている。</p> <p>園の見学では、見学者の要望に応じた丁寧な説明を行っている</p> <p>園の見学は、子どもの様子や職員の子どもへの関わりがわかる午前・午後の時間帯で案内しており、見学希望者が日時を選択できるようにしている。また、オンラインでの見学希望も可能としている。見学の対応はできるだけ個別で行って主に園長が説明しており、見学前に聞いた質問や要望に応じて案内している。施設案内や説明を通して見学者が入園にあたっての不安を軽減し、期待や希望を持つことができるよう配慮している。見学者には、その他にかなえメソッドの冊子を配布し、園の方針に沿った保育内容がより伝わるようにしている。</p>			

サブカテゴリー2

2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

6/6

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園前に重要事項や園のルールについて説明して、書面で承認を得ている

重要事項や園のルールを含む園のしおりは入園内定後に送付し、保護者に事前に目を通してもらえるようにしている。WEBサイトからも入園内定者向けに、入園にあたっての確認や入園時に提出する書類の記入も可能となっている。園のしおりの内容については、入園合同説明会を実施して園長が説明する他、入園前面談で保育士・看護師・栄養士の各担当毎に丁寧な説明を個別に行っている。説明後には保護者からの質問に答え、不安や疑問のないようにした上で、利用者確認票で入園にあたっての確認事項のチェックと署名により承認を得ている。

子どもの保育に必要な情報や保護者の意向を確認して記録している

入園前面談は保育士が行い、健康面や食事面については状況に応じて看護師や栄養士も同席している。予め保護者に記載してもらっている児童個別票、入園時健康調査、0歳児対象の離乳食のアンケートの内容等を確認し、入園面談確認票の質問事項をもとに面談を行っている。質問事項には「家庭での様子や児童の特徴を自由に話してもらおう」「児童の保育に期待することについて話してもらおう」等、保護者の家庭での育児の様子や、姿勢への理解につながる内容となっている。保護者からの要望も確認して記録し、保育に活かせるようにしている。

子どもと保護者が共に安心して園生活が始められるように配慮している

園生活の開始時は慣れ保育を実施しているが、入園説明会でその必要性について伝え、保護者の就労状況や子どもの様子に応じて無理なく進めていくことへの理解を得ている。入園前面談では保護者と相談の上、慣れ保育の日程を確認している。入園当初は子どもの登園時間やお迎え時間をずらし、少人数での保育となるようにして、子どもに落ち着いた環境を提供し、保護者には子どもの様子を丁寧に伝えられるよう配慮している。初日は親子で一緒に過ごし、他の保護者と交流ができるようにして保護者の安心感につながるようにしている。

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育所保育指針や全体的な計画に基づいて、年間指導計画・月間指導計画を作成している

保育所保育指針を念頭に置いて、園の理念方針と子どもの発達過程を踏まえた全体的な計画を作成し、これを園の保育の根幹として具体的な各計画と保育実践へとつなげている。全体的な計画は園長の素案をもとに全職員で検討の上で作成し、年度毎に内容を共有している。年間指導計画の0～2歳児は年齢別に作成し、3～5歳児は異年齢の2クラス編成で各クラス毎に作成している。各クラスの計画はシステム内で共有でき、年度当初には各クラスの計画に基づいた一年間の保育の見通しを職員会議で確認している。

子ども一人ひとりの保育に必要な情報や成長を、専用のアプリを活用して確認している

子ども一人ひとりの保育に必要な情報である児童票や身体測定記録、健康に関する記録、個別計画、経過記録等の個人記録は専用のアプリを用いて記録している。施設内どこからでもアクセスすることができ、職員間での共有が可能となっている。担任や看護師、栄養士の各担当者が入力しているが、プランマネージャーが入力内容をダブルチェックして、補足や訂正を行えるようにしている。個別日誌や連絡帳の個別記録が児童票の経過記録に反映できるシステムとなっており、子どもの発達過程や課題を確認することができ、個別の援助や関わりに活かしている。

日々の保育の事例から、職員間で意見交換をして子どもへの理解を深めている

子どものエピソードを毎月各保育士が記録して、職員会議ではエピソードをもとに意見交換を行っている。エピソードの記録は子どもの行動や仕草、言葉等から子どもの思いを各自で考察をして、援助や言葉のかけ方について振り返っている。エピソードをもとにした職員間の意見交換では、子どもの思いを汲み取り、子どもに寄り沿った援助について学び合う機会となっている。毎月の職員会議の各クラスの子どもの状況報告でも、情報の共有と援助や対応について話し合い、全職員が共通認識を深めて子どもへの関わりや見守りができるようにしている。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

子どものプライバシーを守り、羞恥心に配慮した保育を行っている

運営規定として子どもの個人情報の取り扱いについて明記しており、利用者確認表で運営規定の内容と写真や映像の利用の用途について記し、保護者に承認を取った上で適切な利用と管理を行っている。その他、外部とのやりとりが生じた場合には、園長が随時保護者に確認を取っている。子どもの羞恥心に対しては、年齢に応じた必要な配慮が行えるようにしている。2歳児はトイレ内にパンツ等を脱ぎ履きしやすいように台を設置している他、窓がある保育室でも、瞬間調光ガラスによって子どもの着替えやオムツ交換が外部から見えないようにしている。

子ども一人ひとりの思いを受け止め、尊重する保育を実践している

園の保育として、子どもへの指示や指導を最低限にとどめ、子ども一人ひとりの意欲を引き出していくことを確認している。毎月エピソード記録をもとにした職員のワークでは、子どもの思いを受け止めて、子ども自身がやってみようとするを見守っていく視点を大切に援助や関わりを学び合い、子どもを尊重した保育への意識を高めている。園独自の自己チェックシートがあり、「子どもの個々の発達や性格を理解して、個々に合わせて接している」等の子どもを尊重した対応についての項目をもとに、各自で振り返って確認ができるようにしている。

虐待防止や保護者支援について、理解を深める学びを行っている

園で作成した「乳幼児の犯罪被害防止についての方針と実施内容」では、虐待防止に関する早期発見や不適切な養育の兆候が見られる場合の対応等を明記している。職員はこれを読み合わせ、内容を理解して速やかに対応ができるようにしている。子どもに対して恐怖心や疎外感を与えるような保護者の言動が見られた場合には、専門性に基づいた養育への指導を行い、保護者支援にあたることも明記している。職員会議では保護者支援について、園長を中心に事例毎の対応指示やケース検討を行い、保護者への理解や支援、対応に活かせるようにしている。

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(00)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ6の講評

全職員が職員ガイドブックを基準書として活用し、保育の共通認識を深めている

職員ガイドブックは園の理念方針に基づいた規範や保育の考え方、手法をまとめた基準書として、危機管理や保健活動のマニュアルを共通に理解できるものとなっている。このガイドブックは全職員が所持しており、保育の拠るべき基本姿勢をいつでも確認できるようにしている。職員会議や園内研修には必ずこのガイドブックを所持し、話し合いでの根拠として確認したり、そこに示されていることを実践を通して再認識できるものとして活用している。毎年ガイドブックの内容についての見直しを行い、次年度の計画に反映できるようにしている。

毎年保護者にアンケートを実施して、運営に関する意見や要望について対応している

毎年保護者には第三者評価の利用者調査に基づくアンケートを実施し、保護者からの意見や要望を確認している。示された意見や要望に対しては、保護者に真摯に回答しており、WEBサイトで公表している。その他にも、意見箱の設置や日々やり取りしている連絡帳、保護者とのコミュニケーション等でも保護者の思いをキャッチしている。様々な意見を園の運営に活かしていくために、全体会議やコーディネーター会議で話し合っている。職員からの意見や提案についても毎月の職員会議で検討し、職員の総意のもとで園運営に活かしている。

保育実践を通しての学びを行い、職員全体の方向性を一致させて協働性を高めている

園内研修として毎年1月に「理念共有化研修」を行い、理念の各項目が職員自身の日常の業務にどのようにつながっているかを振り返り、グループワークを行っている。理念と業務のつながりについて互いの意見を伝え合って共有化を図り、次年度への計画に反映させている。毎月の会議の中では保育実践のエピソードをもとにした意見交換や、職員が一年間の保育実践の報告をする研修を行う等、園内研修が充実している。研修を通じた気づきや学びからは、園の方向性を一致できる機会となっており、園の目標に向けて職員の協働性が高められている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		36 / 36	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの姿を捉え、個々のペースに応じた保育に努めている</p> <p>各年齢別の発達や特性を捉え、クラス毎の保育内容や配慮をかなえメソッドで示して保護者と共有している。その上で子ども一人の発達過程を計画や記録、連絡帳での家庭での様子をもとに把握し、学年や年齢を指標とすることなく、子どもの実態に応じた保育に努めている。集団での遊びに子どもを合わせていくのではなく、保育者が近づいていってその子に耳を傾けて思いを受け止め、一緒に考える保育の実践を展開している。日誌や連絡帳の記述、エピソード記録から、子どものペースを考えて援助をしている様子が確認することができる。</p> <p>子どもが様々なことに興味を持ち、遊びを展開できる環境となるようにしている</p> <p>発達や興味に応じた遊具や図鑑、ごっこ遊び、季節の行事、食育活動等の様々な活動に興味を持って参加できるように環境を整えている。クラス会議で環境構成を考える際、子どもが生活しやすい導線であるか、静と動のバランスが取れた活動に取り組めるか、子どもが様々な人と関わることができる環境であるか等の視点を持って話し合いをしている。保育者はねらいを持って保育計画を立て、子どもが遊びを展開できるように環境設定をしているが、活動する中で子どもが興味や関心を示したことを発展できるように、柔軟に環境を変化させている。</p> <p>幼児は異年齢でクラスを編成し、互いに育ち合える関係を築いている</p> <p>3～5歳児は異年齢で編成した2クラスになっており、年齢別の活動の日もあるが、日々生活や遊びを共にしている。保育者は発達の差を活かした遊びの提供や、互いに育ち合う関係を築いていけるよう援助している。共に過ごしていく中では、年長児への憧れから生活や遊びの意欲となったり、年下の子を思いやる気持ちが育まれたりしている。例えばルールのある遊びでは、年上の子が年下の子にルールを伝えていくことで次第に一緒に楽しむ姿となり、年上の子の活動の様子を年下の子が注目していることで、年上の子の自信にもなっている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

全クラスで連絡帳を用いて、子どもの様子を保護者と確実に伝え合っている

登降園時は保護者と口頭で子どもの状況を伝達し合っているが、保育支援アプリの連絡帳機能を用いて、0歳児から就学前まで個々の子どもの様子を園と家庭で伝え合うことを重視している。保護者に重要事項を伝える場合は口頭で行っているが、基本的には連絡帳を用いて、子どもの様子や伝達事項を保護者に確実に伝達できるようにしている。アプリに入力された登園時の子どもの状態や保護者からの伝達事項、降園時に保護者に申し送りをする日中の子どもの様子等の保護者への連絡事項の情報は、全職員がシステム内で共有している。

子どもの意欲を大切に基本的生活習慣が身に付くようにしている

基本的生活習慣は個々の異なる発達やペースに応じて援助し、各自で身に付くことができるようにしている。保育者は子どもの意欲を削ぐことがないよう、安易に介助したり急かしたりすることがない援助を行い、時間や空間を保障して子どもを待つ姿勢を取っている。スプーンから箸への移行は、家庭と確認して子どもの状況を把握し、箸の正しい持ち方を伝えることや箸を使った遊びを取り入れ無理なく進めている。幼児クラスでは身の回りのことを無理のない範囲で行っていき、自分でできることが増えていくことで自己有用感を感じる機会となっている。

家庭と連続した生活リズムに配慮して、個々に応じた休息が取れるようにしている

午睡は子どもの休息時間として捉えて、一人ひとりの子どもの状態に応じた必要な休息が取れるように配慮している。乳児は連絡帳で確認した家庭での睡眠の状況や子どもの様子、体調等に応じて午前中に入眠したり、早めに入眠ができるようにしている。年度毎の各クラスの子どもの様子によって休息を促す時間をおおよそで設定しており、目覚めの時間は14時50分としているが、眠たくない子は絵本を読む等で静かに過ごせるようにしている。5歳児は2月中旬頃から横になっての休息は取らずに過ごし、生活リズムを整えていけるようにしている。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもの思いを汲み取った遊びを提供して、主体的に遊びが発展できるようにしている

保育者が子どもの興味や関心に応じた様々な遊びが提供できるように計画しているが、実践の中では子どもの声や思いを汲み取り、実態に即した柔軟な遊びを提供していき、子どもが主体的に遊びを発展できるようにしている。子どもたちの声から選択できる遊びの設定や自由に遊ぶ時間も設け、好きな遊びを十分楽しめるよう設定している。保育者は子どもの遊びを見守りながらも、状況に応じてより遊びが楽しめるための提案をしたり、子どもと一緒に考えて遊びを展開できるようにしたりして、子どもが遊び込んで充実できるよう援助している。

子どもが感じたことを、言葉や身体で表現して楽しめるようにしている

保育者が子どもの表情や思いを汲み取って応答的な言葉のやり取りを重ね、子どもが自分の思いや感じたことを表現していけるようにしている。幼児の異年齢のクラスでは、絵本を題材として子どもがイメージを膨らませて自発的に表現したり、ストーリーを自分の言葉で伝えたりと、自分なりに考えた表現や言葉を楽しむ活動を取り入れている。身近な出来事を「ニュース発表」として、皆の前で伝えていく機会も設けている。0歳児からリズム遊びを継続的に取り入れて運動発達機能を育み、表現することの楽しさも感じられるようにしている。

子どもが身近な自然の様子を発見して、季節を感じられるようにしている

園周辺の散策や公園での活動では、子どもが季節毎の草花や樹木の変化に気づいたり、探索活動をして自然物の発見を楽しんだりができるようにしている。見つけた草花や昆虫は園で図鑑で調べたり、木の実や落ち葉を製作に活用したりして親しんでいる。5歳児は園外保育で山登りやキャンプを実施し、自然の中でのダイナミックな遊びを体験している。園の屋上にある菜園では野菜や果物を子どもと育て、収穫までの生長観察や収穫物を味わったり、根や茎を使ったスタンプ遊びをする等、収穫物を通して自然への興味や関心を高めている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

行事は子どもの現状から内容を検討して、主体的に取り組めるようにしている

例年行っている行事であっても、子どもの現状を把握して子どもと共に実施内容を考えている。5歳児の宿泊保育の実施では、前年度実施した際の動画を視聴して、子ども同士でイメージを共有できるようにしている。宿泊保育での遊びや食事の内容については、クラスで意見を出し合う場を設けている。運動会で5歳児がオープニングで行う踊りについても、昨年度の5歳児の踊りを振り返って子どもたちで考え決定していく時間を保障している。子ども自身がどんなことをしていきたいのか考える時間を持つことで、意欲的に行事に取り組む姿となっている。

行事の取り組みを通して、子どもたちが友達との仲間関係を築いている

どの行事でも、取り組みのプロセスも含め子どもが協力して達成感を味わえる活動となっている。4歳児クラスでは、園内での宿泊保育を実施している。食事やお風呂、就寝を友達と共に行うことや、友達と協力して楽しむ遊びを通して絆が深められている。5歳児のキャンプ場での宿泊保育では、友達と食事作りに関わる等の生活を協同して行っていく体験や、友達と知恵や力を合わせて遊ぶ体験等を通して、仲間意識や関係性を深めている。宿泊保育での親元を離れての体験からは、一人でもできた自信や達成感を感じる機会となっている。

保護者に行事に取り組む子どもたちの様子を丁寧に伝え、理解を得られるようにしている

前年度末に年間行事予定表を保護者に配布して伝え、園便りでは月の行事予定を知らせている。連絡帳アプリからも行事前に準備物等の詳細を配信して、保護者が早めの準備や確認ができるようにしている。普段の子どもの遊びの積み重ねが行事につながっていることを、保護者に理解してもらえるように連絡帳や口頭でも伝えているが、取り組みの様子がわかる写真や動画も活用して伝えている。また、活動に取り組む初めの頃から、継続して取り組んでいる過程を視覚的に伝えていくことで、できるようになっていく喜びを親子で共有できる機会にもなっている。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

安心して心地良く過ごせる環境構成を、子どもの状況に応じて整えている
園で環境構成を考える際には、子どもが生活しやすい導線であるか、子どもの安全や環境が守れるか、静と動のバランスの取れた活動に取り組める環境か等の視点で設定している。各保育室は色使いや装飾が落ち着いた雰囲気になるよう配慮しており、安心して過ごすことができる環境となっている。衝立を使って少人数で遊ぶことができる環境を作ったり、疲れた様子があればゆっくり過ごすことができるよう設定している。幼児の2クラスをオープンにして、ダイナミックな遊びができるようにしたりと活動内容に応じた環境にしている。

保育形態が変わっても、一日を楽しく過ごすことができるよう配慮している
朝8時30分までの時間帯や夕方は、0歳児以外は子どもの人数や年齢に応じて合同保育を行っている。早番や遅番の担当保育者は担任以外も担当しているが、普段から子どもと関わる機会があるため、全クラスの子どもの情報をアプリや会議で共有していることで、個々に応じた関わりができるようにしている。子どもたちは担任以外の保育者とも普段から関わっているため、当番等で担任以外が保育を担当しても不安なく過ごしている。保育時間が長くなっても楽しく遊ぶことができるように、遊具は変化を持たせて提供している。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもの好きな食べ物が増え、楽しく食べられるように配慮している
食事は好きな食べ物を増やしていくという考えを基本にしており、嫌いなものを無理強いせず楽しく食べることを大切にしている。各クラスの食事の様子の見学では、保育者や栄養士に見守られた温かな雰囲気の中で、子どもたちが明るい表情で食事をしていることが確認できた。食事の盛り付けは特に加減はせず、子どもが残すことは悪いこととして認識しないように心がけ、自分から苦手と言えることを大切にしている。楽しい雰囲気の中でも、食事に必要なマナーや食具の使い方を伝えるよう援助し、子どもが無理なく身に付けていけるようにしている。

子どもの発達や嗜好を把握し、おいしく食べることができるようメニューを工夫している
メニューは子どもの発達や嗜好に応じて作成しており、喫食状況を栄養士や調理担当者が把握できるように常に各クラスを巡回して、担任と共に子どもの食事に関わっている。栄養士と保育者とは、日常的に個々の喫食状況やメニューについての意見を交わしており、食事関係の会議も定期的に行い、食事に関する情報共有をきめ細かく行っている。メニューは和食中心となっているが、洋食や中華等の様々な味にも親しめるようにしている。また、旬の食材を使い、行事に合わせたメニューを取り入れて季節を感じるができるようにしている。

年齢に応じた食に関わる体験を取り入れ、食への関心や意欲につなげている
食に関わる体験を0歳児から5歳児まで年齢に応じて取り入れ、食への関心を高めている。0歳児では食材に直接手で触れたり、1・2歳児ではトウモロコシの皮やそら豆を剥いたり、野菜をちぎったりして調理の一端にも関わる体験をしている。幼児クラスでは包丁等の調理器具を使い、調理保育を行っている。5歳児は宿泊保育で夕食作りに関わり、皆で一緒に作って食べることの楽しさを感じている。屋上で野菜や果物を栽培して、子どもたちが土作りから収穫までを世話することで野菜を身近に感じて関心を高め、意欲的に食べる姿となっている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康や安全に関心を持つことができるよう健康指導を行っている</p> <p>看護師による健康指導を行い、子どもが健康や安全について関心を持ち、病気やケガの予防を自らで考え行動できるようにしている。虫歯予防については、紙芝居やパネルを用いて視覚的にもわかりやすく伝えている。2歳児の手洗い指導では音楽を使って丁寧に洗えるよう指導し、4歳児では手洗いチェッカーを使って洗い残しがないか、子ども自身で確認できるようにしている。5歳児はプライベートゾーンについての話をし、子ども自身が自分の身体を大切にできるよう伝えている。ケガ予防については、遊ぶ前に子どもたちと安全な遊び方を確認している。</p> <p>子どもの健康管理や安全管理を、看護師と保育士とで連携して行っている</p> <p>看護師は、登園時の子どもの健康面の伝達事項を保護者と確認し、日中は各クラスを巡回して子どもの健康状態を把握する等、日々の子どもの健康管理を行っている。子どもの体調に変化があれば、看護師と保育士が連携を密に取って必要な対応を行っている。保育士は室内の衛生管理に関することや、感染症発症時の対応等の保健に関することを、看護師からの指導で確認している。万が一の対応も備え、保育士は救命救急講習を受講して速やかな対応を習得している。ヒヤリハットやケガがあった場合は、対応や原因、再発防止策について全職員で確認している。</p> <p>子どもの健康維持に関する情報を、保護者にわかりやすく提供している</p> <p>毎月の園便りには、子どもの健康指導の内容を写真を載せて紹介しており、家庭での子どもの健康維持に向けて保護者の参考となる内容となっている。SIDSの園での防止については、園便りで実際に子どもの睡眠の様子を写真で知らせ、保護者にも理解を得られるようにしている。感染症発症時には、アプリの連絡帳で配信して伝えている。保護者が健康や発育について不安や気になることがあれば連絡帳での相談も受け、速やかに保育者や看護師が相談に応じたアドバイスを返信する等、保護者の安心感につながるようにしている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

保護者の状況に応じた就労支援や、他職種も関わった育児支援を行っている

入園前面談では保護者の就労時間や家庭状況を把握し、保護者と確認の上で保育時間を決定している。保護者の残業等の急な勤務の変更には、口頭や連絡帳による保育時間の変更を可能としている。また、保育要件以外での保育が可能なケースを園のしおりに明記する等、就労以外でも事情によっては柔軟に受け入れている。育児に関して家庭が抱える困難や課題に対して、園長・保育士・栄養士・看護師がそれぞれの専門分野を活かしながら丁寧に答えていく体制を取っている。連絡帳からの相談にも、担任だけでなく各担当者が連絡帳へ入力している。

保護者同士の交流する機会を持ち、子育ての共有ができるようにしている

保護者同士の交流する機会を設けており、年2回実施している保護者会では保護者同士の懇談の時間を設け、年齢に応じたテーマについての意見交換から、互いの育児についての情報共有や子どもの育ちを共感し合える場となっている。0歳の新人児の慣れ保育では、親子で一緒に過ごす時間を設けていることで保護者同士も交流ができ、入園間もない時期の不安を軽減できる機会となっている。その他、4・5歳児の親子遠足や給食展示交流会での試食調理担当者から話を聞くことができる機会等でも、保護者同士が交流している。

保育活動や子どもの育ちを保護者と共通理解できるよう取り組んでいる

全クラスで連絡帳を使い、保護者には一人ひとりの子どもの生活や遊びの中での成長の様子を、保育者の気づきを視点にして伝えている。園と家庭での子どもの様子を伝え合うことで、子どもの育ちを共有できるようにしている。クラス全体での活動は「活動報告」として連絡帳から配信し、園便りでは活動の様子を掲載して説明していることで、保護者に保育の意図が伝わって活動内容が理解できるものとなっている。園便りは紙とデータで配布しており、家族で一緒に手にして活動の様子を見ることができる良さも大切に考えている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
--	--	--------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

子どもたちが地域での様々な体験ができる機会を設け、経験を広げている

5歳児は区内で開催されている子どもシアターでの観劇や、中学生によるコンサートに参加している。4歳児では園外保育として、区内の熱帯植物園を見学しており、地域で体験を広げる機会がある。様々な場所に行く際には公共交通機関も利用して、公共の場でのマナーを子どもたちが考え行動することも体験している。その他、図書館の利用や消防署・商店の見学、近隣の散策等で地域の様子を知ることができるようにしている。季節の良い時には全クラスで散歩や公園の利用を積極的に行い、自然の様子に気づいたり取り入れて遊ぶことができるようにしている。

子どもたちが地域の人と関わりや交流を持つことができるようにしている

町内会主催の子どもまつりには園として出店しており、親子で地域のお祭りに関心を持ったり、地域の人と交流できるようにしている。近隣への散歩でも地域の人と挨拶を交わしたり、子どもが畑で栽培する野菜や花の苗、豆まきに使う豆等を近くの商店に買い物に行ったりする等、職員以外の人と関わりを持てるようにしている。夏休みには卒園児を含む小学生の育児体験や中学生の職場体験も受け入れ、園児と一緒に過ごして互いに交流を楽しんでいる。地域の親子が参加している保育所体験や妊婦向けの育児体験でも、園児と交流する機会となっている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもの思いに共感して環境を構成し、自発的に遊びが展開できるようにしている	
内容①	各クラス的环境は、子どもが生活を主体的に進められる導線と健康・安全を考え、静と動のバランスが取れた活動や人と関わる力を育ていけるようにしている。どのクラスも広々とした落ち着いた雰囲気環境のもとで、子どもの姿を捉えて発達の見通しを持って立案した計画をもとに環境構成を考えている。実践では計画に沿いながらも、子どもの声や思いに保育者が共感して環境構成を柔軟に変化させている。5歳児では活動や取り組み方をどのようにしていくか、子どもたちが意見を出し合って考える場を設けており、自発的な活動へと導いている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	子どもが食べることの楽しさを味わう体験を重ねて、食への意欲や関心を高めている	
内容②	食事は好きな食べ物を増やして楽しく食べることを基本に、食べる意欲を育ていこう関わっている。食事を残してしまうことに罪悪感を感じることのないように、子ども自身の苦手なものや食べられないことを保育者に伝えられることを大切にしている。訪問時の各クラスの食事の様子からは、担任や栄養士に温かく見守られて楽しく食べていることがうかがえた。乳児クラスから、年齢に応じて食材に触れる体験や野菜・果物の栽培、調理の一部を担う体験等の食育活動を活発に行い、子どもの食への興味や関心が高まって食べる意欲につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	連絡帳を用いて応答的な対話を重ね、子育てを保護者と園とで協働できるようにしている	
内容③	0歳児から就学前までアプリの連絡帳を使い、保護者との丁寧な対話を行っている。園からは個々の子どもに焦点を当てたその日の活動内容を記し、家庭からの記載内容には応答的な回答をしていくことで、子どもの姿や育ちを共通認識できるようにしている。また、家庭からの健康や食事面での心配事や質問には、看護師や栄養士からも専門的な知識をもとに育児支援となるようなアドバイスを記載している。連絡帳での対話からは、保護者が園と協働して子育てをしていることが感じられ、安心感や自信につながって親としての礎が築いていけるものとなっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	充実した職員配置、役割の明確化、コミュニケーションの場の確保等により、モチベーションの高い職員集団が形成されている
	内容	園では配置基準よりも多くの職員が配置され、且つ無駄のない職員の役割分担が行われている。クラス運営等の権限の委譲、人材育成や計画作成、安全衛生等を所轄するマネージャー、統括、リーダー等の役割の明確化等により、職員それぞれの役割や責任がわかりやすくオープンになっている。細やかな打ち合わせの機会やノンコンタクトタイムの確保等、職員が協力しながら自信を持って仕事に専念できる工夫がある。組織の風通しの良さや、柔軟性のあるキャリアパスの仕組みが確立しており、意欲溢れるモチベーションの高い職員集団が形成されている。
2	タイトル	子どもが豊かな遊びを体験できるように、施設の構造や職員の動き方等について綿密に配慮され、保護者の信頼と満足を得ている
	内容	開園から12年経つが明るく清潔感があり、広々とした保育室で子どもたちがのびのびと遊んでいる。職員は遊具の収納や配置、環境構成を柔軟に変化させることで、園庭がなく敷地面積も広くないことを全く感じさせず、豊かな遊びを確保している。保護者対応はクラス担当者が中心になり、対面や電子媒体を使つての丁寧な対話に努めている。また、組織として理念・保育方針、保育の取り組み、毎年行われる保護者アンケートの公表等が徹底されている。こうした働きかけもあって保護者の信頼を得ており、今回の結果の保護者満足度は100%となっている。
3	タイトル	離職率が低く安定した組織となっており、ワークライフバランスを大事にできる働きやすい職場となっている
	内容	開園以来離職率が低く、職員の関係性においても保育の継続性についても安定した組織となっている。園長は、「働きやすさを高めるよりも、働きにくさを排除したい」と考えており、職員の意志やワークライフバランスを尊重し、働く環境作りを整備してきた。保育内容に迷いが生じた時は理念や保育指針に戻ること、ガイドブックを手がかりに根拠に基づく配慮ある行動を取ることで、職員の間で意識や活動の差が生じないよう、納得性の高い保育となるよう指導している。また、職員のライフプラン等にも配慮し、柔軟な働き方のできる組織を確立している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	長期的に見て経営的課題を共有できる、次世代のリーダーを育成する時期を迎えている
	内容	法人理事長でもある園長をトップに、マネージャー、統括等のリーダー層が園全体の安定した運営を担っている。中規模の園として経営は安定しており、職員の配置も基準以上になっている。一方で施設の構造上職員の加配は不可欠であり、将来の人員費率の向上等、経営的課題も懸念される。こうした課題を共有でき、現園長が理事長として法人運営の職務にも注力できるよう、次世代リーダーの育成を始める時期を迎えていると思われる。
2	タイトル	職員の高い能力を維持し、若手職員にも継承できるようにわかりやすい人材育成や学び直しの仕組みの検討も考えられる
	内容	現在の職員はベテランが揃っておりチームワークも良く、計画的で目的意識の高い保育活動が行われている。若手職員は少ないが新規採用も続けられており、チューター制度等により職員間での人材育成の取り組みが進められている。その反面で、園長のリーダーシップに依存している傾向も見られる。園が大事にしている理念と実践の融合を具体的に伝える職員ガイドブックはあるが、職員の高い能力を維持するために更に内容を充実させたり、保育理論の学び直しができるような仕組みにも検討の余地がある。
3	タイトル	職員の定着率の高さからくる慣れや思い込みを排し、適度な組織の新陳代謝を図る工夫も必要となってくる
	内容	開設以来職員の離職率は低く、人材不足の危機も乗り越え安定した園運営を続けてきた。今回の職員アンケートの中には、長年の関係性からくる「慣れ」や「わかっているという思い込み」による意識のズレ等を指摘する意見もあった。採用難の時代にあつて、職員を大事に育成してきた結果の定着率の高さではあるが、フレッシュな若手職員の採用や法人内での人事交流等、適度な組織の新陳代謝を図る工夫も求められている。